

保育計画成果報告書

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 法人名等 | 一般社団法人まちの LDK |
| 施設名 | ちいさいおうち小石川 |
| 報告者（役職） | 米澤祥子（園長） |
| 住所・連絡先 | 東京都文京区小石川 5-38-2 |
| | ☎ 03-5844-6049 |
| | E-mail chiisaiouchi@machino-ldk.org |

○タイトル（保育計画）

暑い日も雨の日もわくわくのびのび

○主な助成備品

ソフトブロック、KAPLA（カプラ）、木製パズル等

1. 保育計画策定の目的

当園は定員 19 名の小規模保育園で、園庭が無いものの、近隣に緑豊かな公園などに恵まれていて、毎日散歩に出かけて外遊びを楽しんでいます。ところが、2018 年夏に経験した猛暑や雨の日などは外に出かけられず、体力を持て余す子がいたり、遊びが単調化しがちでした。そこで暑い日や雨の日でも身体を動かす遊びの場を提供したいと思い、ソフトブロックの導入を考えました。

また、まちにひらかれた保育を理念にしており、ご近所つながりを大切にしたい保育を実践しています。フランス生まれの木製ブロック KAPLA（カプラ）のショールームが近くにあることから、KAPLA を購入し、ショールームのご支援を受けつつ、遊びの世界を豊かにしたいと考えました。

2. 具体的な実施内容

《高密度ウレタンフォーム製ソフトブロック》

適度な反発力と柔らかさを併せ持つ素材のため、よちよち歩きの 0 歳児も安全に使用できました。複数のパーツを組み合わせ、子どもの発達に応じ、季節や場面に応じてさまざまな組み合わせにしました。すべり台のようにしたり、階段にしたり、トンネルを作ってくぐれるようにしたり。保育者に手をつないでもらったり、あるいは自分ひとりで、自由に、時には順番を守りながら、室内で身体を動かしながら楽しく遊ぶことができました。



ブロックとしての利用だけでなく、コの字型に近い台形にしてクッションを中に入れてちょっとした休息スペースにしたり、お店屋さんごっこの店先として使うなど、幅広い活用ができました。



《KAPLA》

まずは近所のショールームに2歳児が出向き、指導員さんからKAPLAの並べ方の基本を教わったあと、自由に遊びました。とてもシンプルな木の板ですが、それだけにさまざまに創意工夫をして遊べます。ただ積み上げていくだけでも十分に楽しく、それを壊すのも子どもたちの楽しみでした。線路に見立てたり、「駐車場」や「家」を作って、ミニカーを並べて遊ぶなどの広がりもありました。





《木製パズル》

年齢や発達に応じ、単純なピックアップパズルから、複数の動物が組み合わせられているやや複雑なパズルまでそろえることができ、雨の日などに大活用させていただきました。

3. その成果と評価

ソフトブロックを使った活動では、0歳児ではハイハイの時期からヨチヨチ歩き、歩行が完成する時期まで安全に活用することができました。斜面をハイハイで上ったり下ったり、壁などに手をかけたり保育者に手を添えてもらいながらヨチヨチ歩いて上ったり下ったり、あるいは1人で上ったり下ったり、そのような動きをすることで、脚力やバランス力を自然に身につけることができたと考えています。

1歳児以降では様々な組み合わせで穴のような構造やトンネルやバランス運動ができる構造を作ることができ、跳んだりまたがったりくぐったり、0歳児とは違う身体の動きを身につけることができたと思います。外遊びができない日は大きな構造体にし、体力を発散すると同時に、筋力やしなやかな身のこなし方ができるようになったと思います。

KAPLAは使い慣れないブロックでしたが、子どもたち自身が工夫して遊び始め、積みあげて何かの形を作るだけでなく、さまざまな見立て遊びにも活用ができることがわかりました。1人で、または何人かで協力しながら、集中して遊びこむことができ、子どもたちの遊びの潜在能力の無限性に気づかされると同時に、保育者にもこんな遊び方があるのだという発見と学びをもたらしました。

また、木製パズル類は、様々な種類や数量をそろえることができたことから、いさかいが少なくなり、譲り合いながら遊ぶことができました。年齢に応じていろいろなパズルを選択でき、子どもたちの想像力や思考力、集中力をつけることができたと考えます。

4. 今後の課題と展望

ソフトブロックは全クラスで月齢や発達に応じた活用をすることができました。しかしながら、まだ組み合わせのパターンをすべて試せたわけではないため、子どもたちの発達の状況を見ながら、ただ上り下りするだけでなく、跳ぶ、乗り越えるなど様々な動きを組み合わせられる構造体を意図的に作るができるよう、探求を続けていきたいと思えます。全パーツを組み合わせでダイナミックに遊ぶ機会が少なかったため、今後は猛暑日や雨が予想される時期に、保育室を広くして使えるような工夫をしていきたいと考えています。

KAPLA は一見ただの板なので、子どもによっては遊びが単調になったり、すぐ飽きてしまったりする場面もありました。シンプルだけに、遊び方の可能性は無限大ともいえ、子どもたちの想像力や創造力を最大限引き出すツールにもなりえると思えます。ただ、保育者自身が遊びなれないこともあり、十分に遊びを仕掛けることができない側面もありました。せっかくショールームが近所にあり指導者がいるため、今後はさらに活用法について指導員さんから学ぶなどして、たくさんの遊び方の引き出しを保育者が持ち、子どもの遊ぶ様子を見ながら次なる展開へつなげる援助ができるようにしていきたいと思えます。

以上